

# そうだったのか! 通信

2017/4

Vol.7 わらべうた

発行: 石神井・冒険遊びの会



ゆうちゃん

昔ながらの遊びには、子どもが成長するうえでいいことがいっぱいあります。

わらべうたは 赤ちゃんから楽しめて、親子のスキンシップにもなります。

ひざにのせたり抱きしめたり手を握ったり、身体にたくさん刺激を与え、

そして何より赤ちゃんが愛情を感じます。

「ずいずいずっころばし」では、

早く自分の番にならないかな?と楽しみに待ち、

そしてちゃんと順番がくるのです。

楽しみながら待つことができ、待っていればちゃんと順番が来る、いいことがあるということがわかります。

うれしい体験を通して自然と「待つ」ことを覚えるのです。

「ひいらいたひいらいた」では、

手をつなぎながら前に歩いたり後ろに歩いたりします。

後ろ歩きがまだ上手にできない子でも

手をつなぎながらだどできる、

そして自分だけでもできるようになるのです。

ベーゴマは こまに紐をかける細かい作業で手先が器用になります。

めんこは 力いっぱい、またはふわっと、という力加減がわかるようになります。

だるまさんがころんだは 動く、急に止まる、という動きかたを体で覚えます。

遊びながら身体のいろんな機能を使うので運動能力が高まります。

異年齢集団で遊ぶとおもいやりができ、

人と人との距離感がわかるようになります。

子どもは遊びの中でいろんなことを学んで成長しています。

